
異常な世界 男子高の物語で B L 要素満点です^{WW}

和茶巢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異常な世界 男子高の物語でBL要素満点ですww

【Nコード】

N6252X

【作者名】

和茶巢

【あらすじ】

上陽学園、ここは日本で一番入るのが難しい男子高だ。そこに通う男子たちが繰り広げる、物語。BLです。

異常な世界 一話（前書き）

小泉 こいずみ 春（春）

誕生日 4 / 7

高校三年の18歳

周りにはバカって言われているww

高校一年の弟がいる。

そして、弓道部の部長をやっている。

クラスの中では成績は下から数えたほうがはやい。

家は政治関係の仕事をしている。

誰にでも優しく、クラスの人気者。

異常な世界 一話

？「もうすぐでもうすぐで会えるんだよ。ねえ、早く会いたいな。」

高校三年の初めこんな事が始まるうなんて…

タツタツ

春「ヤバイヤバイ！あと、五分！！」

ハアハアハア

春「セツセーフ！！」
バンッ

？「アウトだバカ。」

春「痛！！なっ、セーフだろ！結！！！！」

結「一分遅れてんだよ。」

春「一分ぐらいいいじゃねえか！」

結「駄目な物は駄目だ！」

春「結のケチ！！行くなら起こしてくれたっていいじゃないか！」

結「バカか、今日は生徒会の仕事ではやくから行くって言うてただろ！」

春「あーもう！バカバカうるさいんだよ！！結のバカ！！」

結「チッ、やんのか！？」

タッタッタッ

？「結さーん！！いい加減喧嘩しないで来てください！もうすぐ、始業式が始まりますよ！！」

結「ああ、ごめん空。今からそっちに行くよ。」

空「はい！」

結「そうだ、おい春これ。」

そっいつて結が俺に紙とネクタイを渡してきた。

春「ん？」

結「ん？じゃない。紙は組が書いてるやつ、ネクタイはお前がしてないからな！」

そっいつて、結は俺の首にネクタイを着けてくれた。

結「始業式ぐらい、ちゃんとした服装で来い！」

春「すまん。でも、サンキュー！ありがとうな！！」

ジッ

うわ、結の後ろから冷たい視線が！

結「空体育館にいくぞ。」

空「はい！わかりました！」

コソ

空「春もさつさと体育館に来いよ。結さんに恥じかかせたらタダじやおかねえから。」

うわーすごい変わりよう

異常な世界 一話（後書き）

あきづき
秋月 結 ゆい

誕生日 12/2

成績優秀・運動神経抜群・文武両道とゆうすごい肩書きをかつさ
らっている高校三年。

春とは、小学校の頃出会ったところからの付き合いで幼なじみ。
クールで静かだが、怒ると怖い。

家は上陽学園の理事長や校長、医者などをやっている。
生徒会長をしている。

空は次の前書きで書きます（＾o＾）／

異常な世界 二話（前書き）

野上^{のがみ}空^{そら}

誕生日 5 / 14

生徒会副会長

家は野上財閥という有名な財閥で世界で一番か二番を争う財閥だ。そして、結の事が大好きで、結にだけは敬語を使う。

春たちとは中学生から付き合うようになった。

岬とは幼なじみ。

異常な世界 二話

ガラッ タッタッ

? 「おい！遅かったな。寝坊か？」

春「うるせえ、いいだろ！岬！」

岬「なんだと！喧嘩売つとんのか？」

空「その人たち。もうすぐ、始業式が始まるので静かにしてください！」

岬「つと、始まるみたいだな。静かにするか。」

春「そうだな。」

空「ただいまから始業式を行います。新一年生が入場しますので、拍手で迎えてください。」

パチパチパチ

ボソッ

岬「なあ、春の弟ってこの学園に入ってたんだよね？」

春「ああ、一年の代表だったかな？」

岬「マジか！兄弟で大違いだなwwてか、Sクラス行き間違いないんじゃない？」

春「かもなww」

この学園は一年は様子見のため成績順でA～Dの4クラス。二年からはその上のクラスSクラスと言うのが出来る。そして、俺ら四人はSクラスに所属している。

さつさと、おわんねえかな？

結「それでは、先生方の紹介をいたします。」

岬「なあ、また理事長や校長たちは丸投げか？」

春「そうじゃねえ？」

ここの先生たちは大抵生徒の自主性を伸ばすために始業式などの司会は生徒に任せている

結「それでは、一年の先生方から…」

岬「先生だれになるんだろ？」

春「どうせ、また新谷だろ？あいつ先生の中で一番偉いんだろ？」

岬「なんだ。てか、俺あいつ嫌いなんだよな。」

春「俺もだよ。」

結「Aの担任は新谷先生。」

ザワザワ

岬「はあ！マジで！？」

春「毎年、Sクラスの担任は新谷だろ？」

空「静かにしてください！」

結「えゝ、それではSクラスの担任は…。」

春「なんで！？なんでいるんだよ！？」

異常な世界 二話（後書き）

すずおか みさき
鈴岡 岬

誕生日 9 / 7

剣道部の部長

こいつもバカと言われている。

春とは最下位争いを繰り広げている。

家は剣道の名門である事情があつて、別の仕事もしている。

空とは幼なじみで春たちとは中学生から付き合うようになった。

異常な世界 三話（前書き）

憂^{ゆう}騎^き 零^{れい}

誕生日 8 / 17

現在20ながらも上陽学園の先生になることになった。
学園にいたときはテストは100以外とった事はないくて生徒会長
をやっていて、結も入学式に強引に生徒会に入れられた。
今年、Sクラスをもつ事になった。

異常な世界 三話

？「ハロ― 一・二の奴らは初めまして！三年の奴らは久しぶり」

ダッダッ

春「なんで！？なんで、零が入るのか、先生になったってマジ！」

零「春！！久しぶりだな！元気にしてたか？てか、先生じゃ無かったらここにいないだろ？相変わらずバカだなww」

春「バカ言つな！てか、今零って今年で20じゃなかった？」

零「そうだよ。大人の事情だから、詳しくはきくなww」

春「わかった！」

結「憂騎先生と小泉さんは早く戻ってください。」

零・春「えゝ！」

空「さつさと帰れって言ってんだろ？五秒以内に帰らないと反省文50枚。もちろん、先生も」

うわ怖！

春「岬く怖かった！！」

岬「ドンマイww空は怒らすと怖いからなww」

結「次は、一年生徒代表の挨拶です。」

？「はい。先輩の皆さま方、一年代表の小泉 葉です。」

岬「春、弟の登場じゃん！」

春「ああ。」

結「以上で始業式を終わります。」

異常な世界 三話（後書き）

小泉 葉 こいずみ よう

誕生日 3 / 26

春の弟

もしかしたら、春より賢い!?

一年代表でAクラスに所属している。

岬の事を師匠とよんでいて、したっている。

異常な世界 四話

春「にしても、疲れた！ なげーよ！！」

岬「始業式はまだ短いほうだろｗｗ　つか、弟くん凄かったな！！」

春「ああ、そうだな。」

岬「ん？　どうした？」

春「なんでもねえーよバカｗｗ」

岬「なっ！？　お前のほうがバカだろ！！」

？「バカども、ケンカはやめろ。」

春・岬「ああ！？」

空「そうだよ、ケンカするなみつともない。」

春「ああ！？　なんていった？」

結「うるさいバカ！　バカにバカっていつて何が悪い。」

春「ああ！　それは、ケンカ売ってんのか？」

漣「初日からケンカするな！　バカやろうども」

結「なっ!?!」

春「はっはっはっ! 結バカやろっつて言われてる!?!」

結「うるさいな!」

漣「お前らあと五分でホームルーム始まるってわかってっか?」

岬「うわ!?! ほんとだ!?! やべえ!」

空「わかってたなら、先に言えよ! 漣じゃなかった憂騎先生!?!」

漣「遅れたやつ、殺すからww よーい」

春「ちよっ!?!」

漣「どん!」

異常な世界 四話（後書き）

どーも！

作者ですw w

いつもは、キャラ紹介なんですけど、新キャラが今回はいないので書けませんw w

まあ、後々でる予定ですw w

次の予告

三年になった四人、教室では見慣れた光景がと思ってたら。
新しい影が！

次回もみてくださいm (_ _) m

異常な世界 五話

春「はあはあはあつ。」

結「くそつ。」

空「鬼畜すぎるだろ！」

岬「まあ、間に合ったにいいんじゃない？」

春「そうだけど、体育館からここまでダッシュってww」

岬「まあ、いい練習になったとおもえばいいんじゃない？」

結「たしかに。」

空「岬もいいことたまには良いこというな。」

岬「たまにつてww」

春「…。なあ？」

結「なんだ？」

春「人変わってね？」

岬「ほんとに、五人ぐらい変わってる。」

空「ある意味お前らが落ちてないのが、不思議だなwww もしろん、結さんは別ですよ!!」

この学校の制度で成績順にクラスの入れ替えがある。だけど、Sクラスのクラス替えは珍しいものだ。

結「見たところ、四人ぐらい転校生みたいだな。」

岬「うわっ！ 転校してきてSクラス行きなんてやべえなwww」

空「というか、その転校生どっちも双子みたいですねwww」

春「ある意味すげえなwww」

岬「ん？ なんか、そのうちの二組が近づいてくるぞ？」

異常な世界 五話（後書き）

はいっ！

五話の終わりですw w

次は二組の双子の登場です！！

次回予定

春たちの前に現れた、二組の双子。

それも、どっちも何かわけがあるみたい。

いったい、春たちになにか関係が？

異常な世界 六話（前書き）

神宮寺 雅 じんぐうじ みやび

誕生日 2 / 12

ある、有名な剣道道場の跡取り息子
昔は京都に住んでいた。

なので、時々関西弁になる。

髪が長くて女によく間違えられる。

昔岬と何かあったみたいだ。

棗は双子の弟

神宮寺 棗 じんぐうじ なつめ

誕生日省きます

雅の事をしたっていて懂れている。

髪は短く、顔立ちはきれいだ。

棗は剣道より柔道や空手、体を使う技を得意とする。

雅は双子の兄

異常な世界 六話

？「久しぶりです。」

？「元気になってみたいだな」

結「岬？知り合いか？」

岬「あっ！？…。 すまん誰だっけ？」

？「あつ、やっぱり覚えてないですね。」

？「そりゃ、10年ぶりぐらいだからな。」

岬「ごめん。 つか、10年前って何かあったような…。」

空「珍しいね！ 岬が記憶を忘れるなんて…！」

岬「くそっ！ 思い出せねえ！」

？「いいんですよ。 そのうち思いだしてくれたら。」

？「なあ、雅。 忘れられてるなら名前いってこつぜ。」

春「おお！ 頼むな！」

？「それじゃあ私から。 私の名前は神宮寺 雅です。 隣にいる棗の双子の兄です」

棗「俺は神宮寺　棗だ！　隣にいる雅の双子の弟だ」

岬「忘れちまってごめんな！　ちゃんと思いだすから！　これからもよろしくな！！」

雅「はい！」

棗「よろしくな！」

キンコーンカーンコーン

雅「チャイムがなったので僕たち戻りますね」

空「また、あとでね！」

棗「やっぱり、岬のやつ昔の記憶消されとるな。」

雅「みたいやな。　残念やわ。　けどな、棗獲物が近くにおるやん。

「

棗「やな。相手は俺らにきずいてへんみたいやし。」

雅「すぐに仕留めたんねん。また、昔のように笑顔になってもらうために。まっとうてな、岬はん」

異常な世界 六話（後書き）

裏側 W W

春「なあ、今回俺ら出番少なくなねえか？」

結「だよな。」

春「これからは、結の出番は多分へると思うよ W W（b y 作者）だ
つて W W W W」

結「なんだって!？」

春「お前、ある意味主役てき立場なのにな W W」

結「くそっ！ どうせ、今出てきた新キャラをいっぱいだすんだろ」

春「みたいだな W W」

結「はあ、最悪だ」

春「けど、俺はいつでもお前を見てるから」

カア〃〃

結「急になっなにいつてんだ!」

春「顔真っ赤だぞww」

結「うっうるさい！」

春「かわいいなww」

結「やめろー！！」

空「まあ、こんな風に時々出番が少ない人が喋るみたいです
ね。まっ、気が向いたらみてくださいねww」

異常な世界 七話

キンコーンカーンコーン

春「やっと、全部終わった!」

結「お前はほとんど寝てただろ!？」

春「バレてたか？」

結「当たり前だ!! あと、これから部長会議があるから岬に言
つといてくれ。」

春「了解」

結「お前も忘れずに行けよ!」

春「わかってるって!」

結「先に行ってるからな!」

春「岬!」

岬「ん? なんだ?」

春「このあと、部活会議があるから来いって結が言ってたぞ。」

岬「おおっ！マジかんじゃ、一緒に行くか？」

春「そだな」

春「でさww 結の奴が朝起こしてくれるって言ってたのに、先に
行きやがったんだよ！」

岬「乙ww」

春「一言だしww」

プツンッ

岬「！！」

春「ん？ 岬？ どした？」

ポンッ

岬「わりいww 大切な用事があったって言うか今出来たから行っ
てくる！」

春「はあ！？ なにいつてんだ？ これから会議だぞ？」

タツタツタツ

岬「変わりの奴に行くように行ってくれ!!」

春「おいっ！　ちょっと待てって!!」

岬「用事って言っとけよなww」

春「おいっ！　って聞こえないよな。　用事ってなんなんだよ。」

異常な世界 七話（後書き）

キャラの感想ww

空「急に岬用事って走りだしましたね。」

結「ほんとにな。」

空「何処に行くんでしょう？　これから会議って言うのに…。」

結「俺が春の立場なら追いかけただろうなww」

空「さすが結さん！　それじゃあ、僕とゆう存在を追いかけてくれないか!？」

ニコ

結「……………」

空「ああ！　その笑顔たまらないです!!　結さーん
バツ

サツ

結「抱きつくな!」

空「冷たいですね…。　そんな結さんの事が大好きです。」

結「はあ、勝手にしとけ…。」

空「ありがとうございます！一生ついていきます！！」

春「次回予告は俺が貰った！」

次回予告

急に走りだした岬。大切な用事ってなんだよ。

こっちの会議も大切だろ！

そして、岬が倒れる！？

はあ、なんだって？

まあ、次回も見えてくれよな

異常な世界 八話（前書き）

今回は岬視点です。

異常な世界 八話

ガチャ

やつぱり。

結界が破られてやがる。

俺は皆にある事を隠している。

それは、特別な仕事をしている事だ。

特別な仕事とは空を守る事だ。

空は特殊な体質で昔から変な物。

つまり普通の人には見えないやつらに襲われるという体質を持っている。

それが、五代に一度野上家の血縁者に現れる。

そのため、俺ら鈴岡家は野上家のボディガードをしている。

空にはまだその事を知らせていない。

今はまだ、平和に過ごしてほしいから。空にこれ以上の負担をかけたくないから。

ちっ！

俺が作った結界は誰にも破られた事は無いのに。
だれがやっただんだ！

バツバツバツバツ

まあ、とりあえず仕事みたいだな。

キエーッ キエーッ

いつ聞いても不可解な音だな！

「お前らがいるから空が安全に生活できないんだよ！」

グシャッグシャグシャッ

ふう、やつと終わった。

たく、なんでこんなにいるんだよ！

こいつらが、結界を解いた？

あり得ない。

いつものやつとかわりない。

じゃあだれが？

まあ、また結界を張り直さないと。

？「なあ？ 俺それをやられると困るんだけどww」

岬「ああ！？ 誰だ！ ここには誰も入れないはずだぞ！！」

異常な世界 八話（後書き）

次回

岬の結界を破ったやつが？
どうなる岬！？

異常な世界 九話

？「誰か？ 覚えてないの？ つまんないなww」

岬「はあ？ お前なんかしらねえよ！ とりあえず、お前が結界を破ったみたいだな！！」

？「そうだよww てか、あの事を覚えてないなんて、都合よすぎない？ 最低だね。」

こいつなんの事をいつてんだ！？

岬「うるさい！ とりあえず、お前を倒す！！」

ダッ

カキンッ

？「熱くなんなってww いつものお前らしくないぞ？ ってだいぶ昔の話だけどwwww」

昔？ 俺はこいつと戦った事なんて…。

岬「うるさい黙ってろ！」

？「ほんとに。残念。昔のほづが殺りがいたのに…。」

ガギンッ

岬「なっ！？」

俺の持っていた木刀は弾かれてしまった。

？「ほんとに何にもわかんないみたいだし、全部…。いや、自分がどれだけひどいか教えてやるよww」

岬「なにをいつて…。」

？「お前は仲間を捨てて、守るべき空をも捨てて、自分だけ生き残ったんだよww」

俺が仲間を捨てて、空をも捨てた？
こいつなにをいつて…。

岬「……あっ！」

？「思い出してきたようだね。」

岬「そうだ。俺はあのとき！あああああ！！！」

思い出した…。

俺は空を仲間を見殺しにした…。

自分が弱かったから？

いや、違う。

自分を守りたかったから……。

俺はなんてことを。

？「ん」。今の君を倒したって、面白くなさそうだねww じ

やあ、待ってあげる君が全部思いだして昔の力を取り戻したらねw
w その前に空は返して貰うから。」

ガッ

俺は相手の足をつかみ、声をあげた。

岬「俺は空を守るんだ！ 昔のようにならないために！！」

？「残念。今は無理ww それじゃあお休みなさいwwww」

ガッ

岬「グハッ！」

俺は腹をおもいつきり蹴られた。
意識が遠くなっていく……………。

岬「そつそらをつれて行かないでくれ…………。」

ガタッ

？「ごめんね。 鈴岡くん…。 空は俺らにとってはかけがえのな
い人だから。」

俺はその言葉を聞いてから気を失った。

異常な世界 九話（後書き）

気を失った岬！
どうなる？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6252x/>

異常な世界 男子高の物語でBL要素満点ですww

2011年11月24日19時45分発行